

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
福島県会津坂下町	八幡地区（大沢）	令和3年3月22日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	12ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	11ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	0.04ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.04ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	3ha

2 対象地区の課題

<p>【現状】 この地域は、会津坂下町の西部に位置し、国道49号をはさみ広大な畑と小区画の田が点在しており、水稲とそばの栽培を中心とした営農が行われている地域である。 本集落は、農家戸数が少ない集落であり、後継者不在の場合が多いことから、今後離農が増加していくことが予想される。</p> <p>【課題】 ○水路の老朽化や堤が小さい等水利の問題がある。 ○国土調査が進んでおらず境界が不明瞭なところが多い。 ○圃場（田畑）によって石が多かったり、地盤が軟らかかったり土壌条件が悪い所があり、作業効率が向上しない。 ○山際の田は手入れが行き届いておらず、耕作放棄地が多い。 ○クマ、イノシシ、ネズミ等の鳥獣被害が発生しており、年々増加傾向にある。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>【集落農業の目標（将来像）】 ○集落内の田部門は五十嵐正康、畑部門は小野巧を中心に農地を集約するとともに、農家と非農家が協力して営農施設等の維持強化に努め、集落農業を維持・発展させる。 ○農作業を効率的に行えるように補助事業を活用して基盤整備事業の実施を検討する。 ○地域特産のそばや新たに観光目的としてハーブやワイン用ブドウ導入等により、持続的かつ発展的な農業経営を実現する。 ○大沢でしかできない特産品を作る。（サツマイモ、ブス、みしらず柿の加工品等） ○景観や特産品を生かし、観光農業を進展させ村をPRする。 ○耕作放棄地を出さないような仕組みづくりを構築させる。</p>
<p>【課題解決に向けた取組み】 ○担い手を支援できるような仕組みづくりを農家と非農家が協力して実施する。 ○大沢環境保全委員会（多面的機能支払交付金事業）の活動を継続し、農家と非農家が協力して農地保全等の取組を維持・発展させていく。 ○観光農園の一環として、ハーブやワイン用ブドウの導入を検討する。 ○集落内の田部門、畑部門を担い手へ集積・集約化させる。 ○クマやイノシシ等の鳥獣害対策に組織的に取り組む。 ○新規の担い手を受け入れられるよう情報収集に努め、支援できる体制づくりを実施する。</p>

【農地集積・集約の方向性】

○当面の中心経営体として下記の農家を位置づけ農地を集約化する。

【中心経営体の役割】

○将来に渡る集落農業の継続に向けた生産基盤・経営基盤の強化・発展に努める。

【農地委託農家の役割】

○中心経営体が今後の集落農業の担い手であることを考慮しつつ、可能な限り自作地の維持・保全に努める。

○中心経営体への委託にあたっては、可能な限り作業委託を選択するように努める。

○中心経営体への農地委託にあたっては、農地中間管理機構を通じて契約するように努める。

4 本地区における中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農法		水稻、麦	3.6 ha	水稻、麦	5.2 ha	大沢（大沢分）
認農		麦、ソバ	3.7 ha	麦、ソバ	5.1 ha	和泉（大沢分）
		きゅうり	0.14 ha	きゅうり	0.14 ha	大沢
		野菜、ソバ	0.48 ha	野菜、ソバ	0.48 ha	大沢
		水稻、ソバ	0.45 ha	水稻、ソバ	0.45 ha	大沢
		水稻、ソバ	0.63 ha	水稻、ソバ	0.63 ha	大沢
計	6人		9 ha		12 ha	